

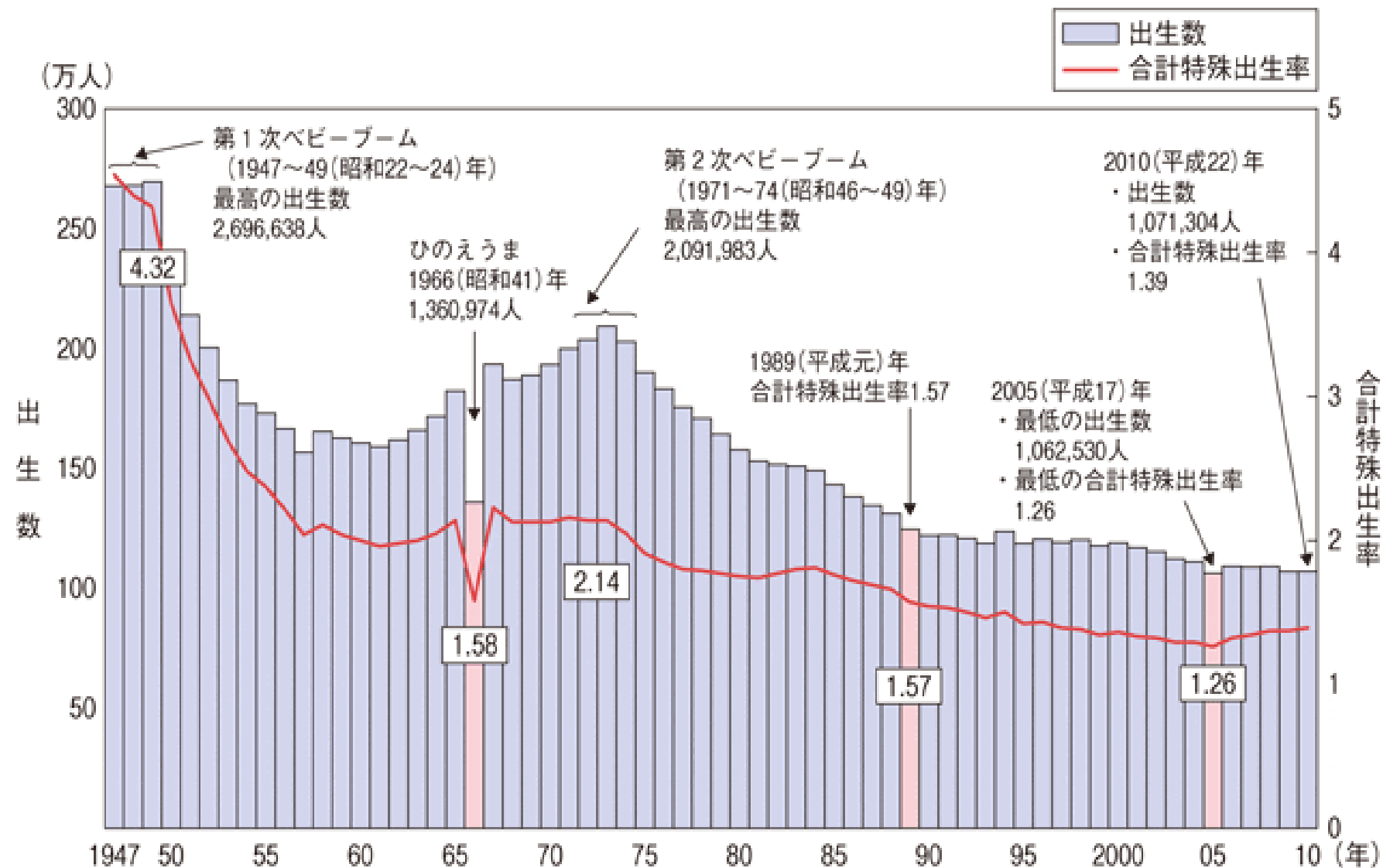
若者の視点で少子化を考える ～コミュニケーションの大切さ～

2014年1月23日 大分県庁

総合ゼミⅡ

文学部史学・文化財学科3年 太田 佳那子・白川 優太

国際経営学部国際経営学科3年 河野 誠弥 ・丸山 和斗



資料：厚生労働省「人口動態統計」(2010年)

注：1947~1972年は沖縄県を含まない。

* 少子化の原因

* 大学進学率の増加
⇒ 58.7%

* 女性の社会進出が著しくなっている
⇒ 働く女性の割合は約70%

* 晩婚化
⇒ 男性：30.8歳
⇒ 女性：29.2歳

※ 女性が第一子を産む年齢が高くなり、必然的に
子どもの数は減少していく

* どうすれば解決できるか！！

- ・ 女性の社会進出への応援

＝企業や自治体が今よりさらに女性が子どもを産み育てながら働きやすい環境をつくる。



女性だけでなく男性も子育てしやすい環境づくり

- ・ 晩婚化を考えると

子どもの教育などに多額の費用がかかるため結婚できないのでは？

＝国や県、社会全体が今を生きる若者にスポットライトをあて

予算面での支援が必要だと感じる

(具体的には...)

総合ゼミⅡで学んだこと

- * 自分の考えをことばで上手に表現するためのコミュニケーション・スキルを身につけること
- * 社会で起きていることを正確にとらえるための「[新聞の読み方](#)」
- * 自分たちの将来をデザインするために、今、起きていることから課題をさがす。その一つとして「少子化」に着目
- * 少子化の原因、その解消についてのディスカッション
- * そもそも、「子どもを育てるとは」を考えるため外部講師の方のお話を聞く。
- * [乳児院へ体験研修](#)
- * 事後の意識の変化や今後の大学生としての取り組みを考える











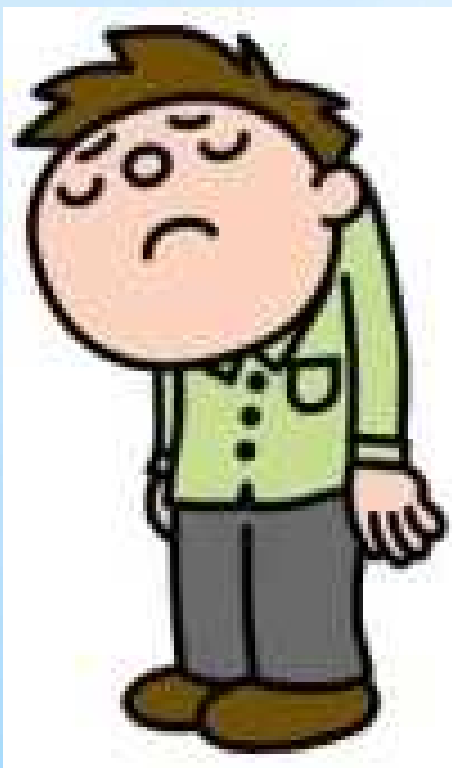
* 私たちに今できる事

- * 出会いがないわけではない
- * 男子女子問わず積極性に乏しい、受け身の姿勢でいる。
- * 一歩を踏み出す自信をつけること。
⇒「伝え方」を学ぶ
- * 意識改革
⇒ディスカッションを行い意識を高める

昨今世間では、

草食系男子

と呼ばれる男性が増えている



*まとめ

- * 今回講義で、“少子化”という一つの問題について学科を超えて議論したり、体験活動を行ったりと日頃の授業ではなかなか体験する事のできないことを行い、「親になること」を考える機会となった。
- * 私たちが、将来、親になった時に子どもたちに何をしてあげれば良いのかという事もこの学習を通じて、感じる事ができた。
- * いずれ私たちは、社会人になるが、今回の経験などを踏まえて、今の自分たちができることは人生をきちんと計画し、そのために必要なことを一つずつ前向きに実行していくことだと感じる